

令和6年度 須恵町立須恵第二小学校 学校経営要綱

須恵町立須恵第二小学 校長 城戸 昭彦

I 学校経営の基本構想

1 学校経営の基本や基盤

(1) 公教育としての基盤に立つ学校教育を行う

- ① 第七次須恵町総合計画において「教育立町 須恵 ～社会総がかりで教育を推進～」とあり、教育活動をとおして、ふるさと須恵を愛する子供の育成を行う。
- ② 須恵町の目指す子供像として、「感動」「感謝」「共感」できる心をもった子供の育成を行う。
- ③ 本校の教育は、中立性を確保し、公共性・共益生をめざして、児童の学習する権利を保障し、その実態を保護者や地域住民に公開することを原則とする。

(2) 現代社会の要請に応える学校教育を行う

- ① 基礎的・基本的な知識及び技能、思考力、判断力、表現力を身に付け、友達や先生、保護者、地域の人とのかかわりやつながりを通して、生活をより良くつくり変える力を身に付けた子供たちを育成する。
- ② 今の教育界は、多様化・複雑化・困難化だと誰もが思うような状況である。また、過去にもコロナ禍という予測困難な事態が発生した。今後も過去にないような困難な状況に陥る可能性も視野に入れておかねばならない。多様化・複雑化・困難化の状況を乗り越えるために、全職員がベクトルを揃え、一丸となって知恵を集結し、様々な工夫を施すチーム力の発揮が必至である。また、揺るがない教育の理念をもった教師の育成も必至である。
- ③ 現代社会は、きめ細やかなネット環境の充実やAIの発展により、人との直接的な交流が薄くなりがちである。そこで、より良い共生社会をつくるうえで、自分を取り巻く人とのつながり（信頼関係）を強固にすることがより一層重要になるものと捉える。

(3) 児童・保護者・地域の願いに応える学校教育を行う

- ① 本校の伝統と実績を尊重し、学ぶ楽しさを味わい、友だちとの良好な関係を築き、誰もが毎日元気に通いたい学校づくりを行う。
- ② 家庭・地域と連携を図り、保護者・地域が安心する信頼のある学校づくりを行う。
- ③ 須恵町の人・もの・ことと触れ合いつながりを深めることを通して・ふるさと須恵に愛着を深めていく子供を育てる。

2 教育目標

ふるさと須恵を愛し、夢をもって主体的に取り組む子供の育成

(1) 教育目標の意味

「ふるさと須恵を愛し」とは、須恵第二小学校で伸び合う仲間と学ぶ信頼関係のもと、学校や地域のひと・もの・こととの継続的な関りを持ち、共に生きる地域の方への感謝の気持ちをもつことである。このことは、将来、ふるさと須恵、持続可能な社会の創り手となる素地を培うことにつながると考える。

「夢をもって主体的に取り組む」とは、自分のよさや可能性を認め、多様な人々と協働しながら、自律的に目標達成のための行動をとることである。このことは、「ChatGPTの台頭」、「SDGsの推進」など社会の在り方が劇的に変わる第一歩を踏み出している。こんな時だからこそ、ふるさと須恵を大切に、よりよい地域社会を創る大人につながるような子供を育成すべきであるとする。

（２）教育目標に込めた願い

現代社会は、世界に通じるグローバルな人材が求められているからこそ、小学校時代に須恵の人々や文化、自然と触れ合う機会を増やし、ふるさとへの思いを膨らませ愛着感を抱き、自己のアイデンティティを確立していくことが必要である。また、公的扶助の考えからも**地域とのつながり**が重要となってくる。そこで、「ふるさと須恵を愛し」という目標を設定した。

本校の子供たちには、日々の授業において学ぶことの楽しさや分かることの喜びを味わい、有用感や所属感を実感し、新たな目標に向かって学校でも家庭でもその意欲を持続させてほしいと願っている。そのためには、安心して学ぶことができる学習環境を整え、みんなに分かる授業づくりの工夫を行い、楽しい学習を展開し学習意欲を向上させたい。また、学習意欲を学校だけでなく家庭でも持続させるためには、学習習慣の形成に向けて学校と保護者が連携を図ること、つまり**学校と保護者がつながる**ことが大切であるとする。さらに、楽しく分かる学習を生み出す前提として、友だちとの対話活動、交流活動、話し合い活動により友だちと協働して練り上げる活動が必至である。これらの学習活動を通して**児童同士がつながり**、友情を深めさせたいとする。また、日々の学校教育で一番影響を受ける者は、教師だと考える。教師と児童の関係性が良好であると、担任を好きになると、子供は学習がすきになり、学校が好きになり不登校も解消されると予想する。教師と児童の良好な関係つまり、**教師と子供がつながる**ことが子供のより良い成長へと導くものとする。

このような子供、教師、保護者、地域の4者がしっかりつながることで、安全安心で、認められ、愛情たっぷりの環境の中で子供たちは、「～できるようになりたい（自己実現）」「～になりたい（職業観）」「～のように生きたい（人生観）」などの願いを抱くであろう。これらの願いが「夢をもって」である。

「主体的に取り組む」とは、「合う」と規定する。それは、知育だけでなく、徳育、体育・気育にも当てはまるものと捉える。この「合う」という動詞に主体的な意味が込められている。

「～合う」ためには、自分の意見考えをしっかりとつ必要がある、また「合う」ためには、自分自身が発信したり、自分自身で受信したりする必要がある。よって、主体的に取り組むとは、「合う」ことであるとする。この「合う」をキーワードにして、目指す子供の姿を設定したい。

II 本年度の重点目標及び経営の重点

1 本校の教育課題、経営課題

(1) 教育課題（子供の実態から）

- ① 国語科、算数科の学力向上（学びスタンダードの徹底、思考判断表現力の向上など）
- ② 良好な人間関係づくり（つながる教育活動の充実、不登校児童の減少）
- ③ 規範意識の徹底（生活スタンダードの徹底、ルールやマナーの理解徹底など）
- ④ 非認知能力の向上（自己肯定感の向上、粘り強さなど）
- ⑤ 豊かな心を育む読書活動の推進

(2) 経営課題（組織運営の課題から）

- ① 学年チーム力の向上（学年で方策を立て、主体的に取り組む、学級間格差の是正など）
- ② 若年教師、ミドルリーダー、シニアリーダーに応じた人材育成
- ③ 特別支援教育の充実（特支児童が交流学級でも活躍できるように）
- ④ 工夫ある働き方改革、不祥事防止の徹底
- ⑤ PTA、いきいきコミュニティ、須恵東中学校と連携した教育活動の推進

2 本年度の重点目標

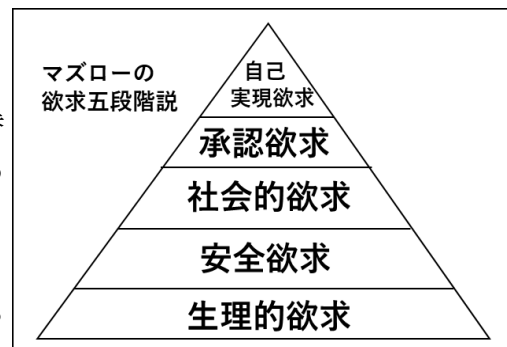
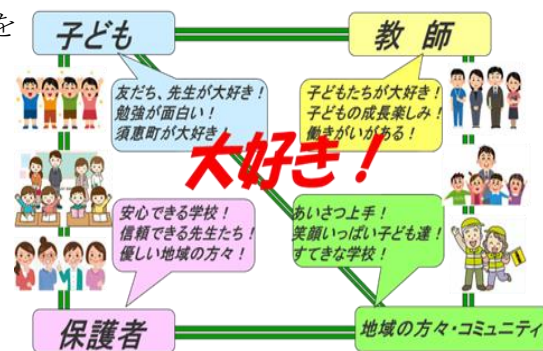
(1) 本年度の重点目標

『もっとつながり、みんな笑顔になる学校づくり』

(2) 主題の意味

つながるとは、児童、教師、保護者、地域が信頼関係を築くことである。具体的には右資料のように、授業のなかで担任と児童がつながる、交流活動で児童同士がつながる、学習参観を通して、担任と保護者がつながる、学校行事で担任と保護者、保護者同士がつながる、学校を開くことで学校と地域がつながる、コミュニティとの協働活動で学校と地域がつながる、児童の地域行事への参加で、児童と地域がつながることである。

みんな笑顔でとは、人がつながったとき、友だちであれば「親友」となり、担任であれば「信頼」を抱き、地域であれば「愛着」がわく。この状態が基盤となり、児童を取り巻く全ての人的環境（みんな）のなかで、みんなが「満足」することである。また、「満足」するとは、右資料のマズローの欲求5段階が全て満たされた状態のことであり、そうなれば、心が満ち足りて幸せな気持ちになることである。児童は、もっとつながると対象が大好きになり、好きな人（こと）の為に一生懸命取り組み、するといい結果が生まれもっと笑顔になるという捉えである。



3 具体的目標

(1) 目指す児童像

① 知（深め合う子供）

- ア 自ら挙手して発表・説明などが積極的にできる子供
- イ 交流活動などにより考えを深め合う子供
- ウ 積極的に読書に励む子供

評価指標

- 全国学調、標準学調にて昨年度より+2ポイント以上
- 標準学調で評定1の割合 国語科12%未満、算数科12%未満
- 8つの目標①②の児童自己評価で3.2以上
- 本貸し出し冊数、低：120冊、中：100冊、高：80冊以上/年

凡事徹底

② 徳（支え合う子供）

- ア 温かいあいさつ、言葉づかいができる子供
- イ 自分・友達よさを見つける子供
- ウ 学校のきまりを守る子供

評価指標

- 児童自己評価アンケートで「学校が楽しい」と回答した児童を95%以上
- 8つの目標④⑤⑥の児童自己評価で3.2以上
- 不登校児童数2%以下（15名以下）
- i-check で、学級環境に関する項目と人との関わりに関する項目で5.2以上

率先垂範

挨拶日本一

③ 体（鍛え合う子供）

- ア 立腰姿勢と黙働清掃の仕方を身に付けた子供
- イ 自信をもって堂々と取り組む子供

評価指標

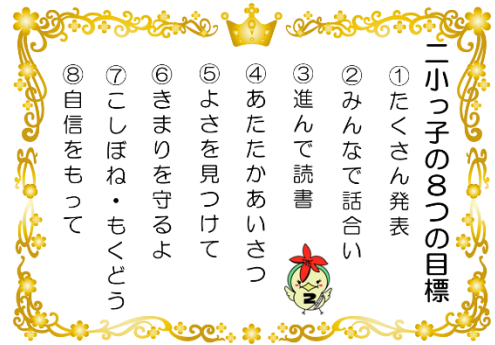
- 8つの目標⑦⑧の児童自己評価で3.2以上
- 新体力テスト 運動の日常化と運動の愛好度 A：50P以上 E：20P未満
- 大縄跳び 学級目標の達成

立腰姿勢

へそめ

(2) 目指す学校像

- ① 活気のある学校 =あたたかいあいさつ・言葉づかいにあふれる明るい雰囲気。
- ② 信頼される学校 =分かる、できる、楽しい学習、いじめ0、不登校2%以下。
- ③ 子どもを日々成長させる学校 =学習毎時間の確かな伸び、道徳性や感性育む環境づくり。
- ④ 連携を強化する学校 =保護者、中学校、地域コミュニティとの教育活動の推進。



(3) 目指す教師像 (ティーチャーズスタンダード8)

- ①子どものやる気を高め、ポジティブ指導に努める。
- ②察知して即指導、そして、問題行動をした理由を聞いて、子どもが納得して反省するまでの指導をする。
- ③授業中の姿勢・態度・服装・言葉遣い等に気をつけて授業に臨む。
- ④本時目標、めあてを明確にもち、板書計画をして授業に臨む。
- ⑤交流の場の工夫、教材教具ICT等を活用して、子どもが活躍する学習を展開する。
- ⑥明るい挨拶、謙虚な姿、温かな指導で全職員との信頼関係を築く。
- ⑦「報告—連絡—相談」を密にし、問題解決にあたる。
- ⑧専門性を高めるために、謙虚に主体的に学び続ける。

上は、ティーチャーズスタンダード8と称し、教師が守るべきルールである。子供たちと①②は「心でつながり」③④⑤は「行動と姿勢でつながり」職員間と⑥⑦⑧は「態度と意志」でつながる

(4) 目指す保護者像

- ① 基本的な生活習慣や学習習慣を子どもに指導する保護者 (早寝早起き朝ごはん、家庭学習の時間確保)
- ② 挨拶 (おはよう、いってらっしゃい、おかえり、おやすみなど) を進んでかわす保護者
- ③ 子供と遊び、家庭学習に目を通し称賛したり教えたりして、子供と進んで関わる保護者
- ④ 学習面、生活面、習い事などで、子どものやる気を引き出すような声かけのできる保護者
- ⑤ 家庭でスマホやゲームなどの使用について、子供にしっかりきまりを守らせる保護者

(5) 目指す保護者対応

学校で起こったトラブル、けが、事故などで学校にクレームが入ったり学校側の対応について厳しく問われたりすることがとても多くなっている。しかし、「ピンチはチャンス」で、その対応を以下の内容で行えば、保護者との信頼関係が深まるきっかけにもなり得ると考える。

- さ : 最悪の結果を想定して対応すること。「これくらいは・・・」→×
- し : 親身になって対応すること。「たいしたことないよ」「よくあること」→×
- す : 素早く対応すること。「明日登校してから」「夜なので」→×※内容によっては
- せ : 責任をもって対応すること。「子供同士のことだから」→×
- そ : 組織で対応すること。「一人で家庭訪問」→×

誠実に!

4 経営の重点

昨年度学びスタンダード、生活スタンダードを基盤にして、学習中に子供が活躍するために、交流活動や発表場面、話し合い活動などを旺盛にしてきた。また、児童と教師、児童同士のつながりを目指して教育活動を展開した結果「学校は楽しいですか？」の問いに楽しい、まあまあ楽しいと回答した児童がちょうど90%になった。楽しくないと回答した児童が3%人数にして23名居り、それは、各学級1名の換算である。

今年度も、もっとつながり、みんなが笑顔になる学校を目指す。笑顔になるには楽しさが必要である。児童にとって最優先事項は、「楽しい」ことである。楽しさこそが学習意欲を喚起させると考える。楽しさこそが、活動の原動力となり、不登校減少にもつながるものと考え。しかし、その楽しさは、一部の児童のものではなく、全児童のものとなり得なければその価値は無い。

信頼関係を築き、みんながもっとつながり、学習や活動の楽しさを味わい、みんなが笑顔いっぱいになる学校が創造できれば、学力向上が図られ、児童の自己肯定感も上昇し不登校児童の解消も実現すると考える。友達や担任との関係が良好で、学習もよく分かり面白く、授業中活躍できることが、自分を楽しくする条件であると考え。

そこで、今年度は、以上の目標達成のために、1つ目は、全教師で取り組む活動や手立てを共有化し、全職員で足並み揃えて取り組むこと（**共通取組**=学び、生活スタンダード5、ティーチャーズ8）2つ目は、学年毎、または学級毎に目標、活動内容や手立てを考え工夫して取り組むこと（**独自取組**）の2方策で経営に参画していただきたい。

独自取組とは、児童の実態をじっくり把握し、課題を見つけ出し、その課題解決のために手立てを打つことである。端的に言う「察知して手を打つ！」ことである。

この独自取組を学年で、または各担任が考えることで、教師の主體的な教育活動が展開でき、働き甲斐を感じ、児童のよりよい変容に満足感、自己有用感を感得できるものと期待する。

III 重点目標達成のための教育活動

『深め合い、支え合い、鍛え合う子どもの育成』

1 「深め合う」子供を育てる教育活動

- (1) 自ら挙手して発表・説明などが積極的にできる子供
- (2) 交流活動などにより自分の考えを再構築（付加修正）できる子供
- (3) 積極的に読書に励む子供

〈具体的な取組〉

- ① 独自取組にて、目標を目指すこと。
- ② 学びスタンダード5（構え・聴く・話す・姿勢・挨拶）の徹底
- ③ 子供が活躍する学習を展開すること。（教師の説明時間は15分間）
- ④ ティーチャーズ8の③④⑤⑥を確実に実施すること。
- ⑤ 算数科において習熟度別学習（コース別学習）の実施。
- ⑥ 読書量の向上。低学年：120冊、中学年：100冊、高学年：80冊（達成指標）
- ⑦ 読書の時間を工夫して取り入れ、家読をすすめること。

- ⑧ 保護者と連携して進める学習活動や家庭学習の取組
- ⑨ 家庭学習のすすめをもとにした保護者への協力依頼

〈具体的な活動〉

- ① 独自取組にて、目標を目指すこと。
- ② 算数科において3, 4, 5, 6年生で習熟度別学習（コース別学習）を実施すること。
- ③ 家庭学習の充実、算数科の宿題内容は、その日の授業とリンクさせ復習を中心にさせる。

2 「支え合う」子供を育てる教育活動

- (1) あたたかな学級風土をつくり、どこでも誰にでも、優しい言葉かけや思いやりのある言葉かけができる子供
- (2) 友達先生地域の方など子供を取り巻く人たちのよさを見つけ認め、大切にすることができる子供
- (3) 学校で、家庭で、地域で、習い事の場で、きまり、ルールやマナーを守る子供

〈具体的な取組〉

- ① 独自取組にて、目標を目指すこと。
- ② 生活スタンダード5（挨拶・整理整頓・掃除・安全・言葉遣い）の徹底
- ③ ティーチーズ8の①②を確実に実施すること。
- ④ ポジティブ指導で児童のモチベーションを向上させる。
- ⑤ 学級での係活動、委員会活動、クラブ活動による企画・実施・発信を充実させる。
- ⑥ ふれあい学習の充実。（実施回数を増やす）
- ⑦ 担任が率先してあたたかな声かけ、励まし勇気づけられるような声かけ、しかし、時と場、状況によっては厳しく注意・指導を行う。（厳しくて優しい先生、率先垂範、ならぬはならぬ）
- ⑧ いじめ、トラブル、悩みへの早期発見・早期対応を実行する。
- ⑨ 学校行事・学年行事で鍛えて称賛する。教師と保護者、学校と保護者がしっかりつながる絶好の機会だととらえ、昨年度よりも児童の姿を進化できるように教師も力を入れて指導を行う。

〈具体的な活動〉

- ① 独自取組にて、目標を目指すこと。
- ② エンカウンターを「スマイルタイム」（仮）と名称を変え、毎月第二月曜日に実施する。
- ③ いじめノックアウト宣言（6月） ④ 人権標語づくり（12月）
- ⑤ 接遇マナー研修（5年生、2月） ⑥ 論語（決めた時間に素読する）
- ⑦ 10才記念日（4年生、2月）

3 「鍛え合う」子供を育てる教育活動

- (1) 立腰姿勢や黙働清掃による学習や活動への集中力育成
- (2) 自己肯定感を高め、自信をつける指導を行う。

自己肯定感とは自分自身のことをかけがえのない存在であり、大切な存在だと感じられる状態のこと。自信とは、自分の能力や価値を認識し、自分に対して前向きな態度をもつこと。

自己肯定感が高まったうえで、それに伴い自信も高まると考える。

〈具体的な取組〉

- ① 独自取組にて、目標を目指すこと。
- ② 運動遊びや体育科学習の充実
- ③ 学級でのよさみつけ、児童の活躍に対する称賛、ポジティブ指導などにより自己肯定感を高める。
- ④ 全教科領域において、ちょっとだけ高い目標やちょっとだけ難しい課題などを設定し、挑戦活動を取り入れる。（鍛ほめメソッド）
- ⑤ 体育委員会などによる企画・実施・発信活動を充実させる。

〈具体的な活動〉

- ① 独自取組にて、目標を目指すこと。
- ② 持久走大会 ③大縄大会
- ④ キャリアパスポート

IV 経営課題改善のための取組

1 学校・学年チーム力の向上（組織的取組、指導力の向上、学級間格差の是正）

(1) 学校チーム力の向上

- ① ティーチャーズスタンダード8の⑥⑦⑧の徹底
- ② ベクトルをそろえる
 - 学校経営要綱の理解
 - 教育活動の目標、内容、手立て等の理解
 - 4部会の機能化
 - ・学力向上部会（研究推進委員会も含む）
 - ・生徒指導部会
 - ・気力体力向上部会
 - ・特別支援教育部会

※この4部会には、校長教頭2名主幹教諭2名のいずれかが所属する。

開催日時は、同一日、同時間帯とする。

- ③ ティーチャーズスタンダード8の②の徹底
 - 問題行動を見つけたら、即指導すること。（他学級他学年でも）
- ④ 学年主任者会の更なる充実
 - OODA（観察－判断－決定－行動）サイクルで学年経営を迅速化する。
 - 課題解決への手立ての協議
 - 本会の開催日は、クラブ活動の時間と同一で実施する。
- ⑤ 校内研（主題研、一般）の充実（児童のためになるように・・・）

(2) 学年チーム力の向上

- ① 独自取組にて、目標を目指す。
 - 学年のよさ、課題を明確に把握し、課題解決のための手立てを学年で講じる
- ② 学年で指導体制を工夫する。
 - ICT活用
 - 教科担任制
 - 交換授業
 - 学年合同授業
 - 習熟度別学習

- ③ 特支担任との効果的な指導連携を図る。（特支での授業時数は全体の50%以上で）
- ④ 学習指導力や生徒指導力を高める学年研修の充実。
 - 学年で教材研究、参観前の空授業、授業研の裏授業など
 - 学年で主題研究を充実させる。

2 若年教師、講師（助教諭）、ミドルリーダー、シニアリーダーなどに応じた人財育成

- ① 独自取組にて、目標を目指すこと。
- ② メンターメンティー制の研修
- ③ 志の会
 - 若年教師を中心とした講話研修
- ④ 管理職による人財育成
 - コンビニ研修（授業参観後に20分指導、指導案無し）
 - コラボ授業研（一緒に授業づくり、一緒に振り返り）

3 不登校児童の減少

- ① 独自取組にて、目標を目指すこと。
- ② もっとつながり、みんな笑顔で！ の具現化に向けて
 - ティーチャーズスタンダード8の①から⑥までの完全実施
 - スマイルタイム（仮）の充実
- ③ 校内適応指導教室（ひまわり教室）の運用
 - 通常教室に戻ることを目指した取組
 - ひまわり教室でのルールの徹底
 - コミュニティ、保護者との連携
- ③ 不登校防止研修会の充実
 - スクールカウンセラーからの講話、指導助言
 - 他校の効果的な実践例に学ぶ研修

4 特別支援教育の充実

- ① 不登校防止研修会の充実（特支児童の不登校が多いため）
- ② 特支児童の交流学級内での学習の充実
 - 支援員の効果的な配置
 - 共同学習の実施
- ③ 自立活動、生活単元学習の研修の充実

5 工夫ある働き方改革、不祥事防止の徹底

① 働き方改革の共通理解。

○2019年1月29日 文部科学大臣からのメッセージ（学校における働き方改革の実現）を投げどころにする。

○「教師の本分は学習指導であること」「子ども達にとって真に必要なものは何か、優先順位をつけ、各自で業務を減らし、家庭や地域の協力を得ること」「働き方改革は、教師が楽をすることではなく、児童の学習指導、学級経営に全力を注げるように環境を整えること」
この3本の基本的な考え方を基に働き方改革を進める。

② 見直し

○毎学期末に行事、活動、職務内容などを見直し、次学期に改善を図る。（年間通さない。）

○活動、行事などの終了後、職員へ振り返りアンケートをとり、改善材料とする。

○学年で働き方を工夫する。学年で声を掛け合い、注意喚起し不祥事を防止する。

③ 不祥事防止研修

○管理職による不祥事防止を記事にした通信の発行。

○主体的な姿を目指すために、コンプライアンスの日を設定し、各学年で研修を担当し、ミニ講話を実施する。

6 保護者、校区コミュニティ、中学校との連携

① 保護者とつながるために

○学習参観で、学びスタンダード5とティーチャーズスタンダード8の③④⑤が見える学習を展開する。

○子育て、家庭教育などについて啓発する。

・学習参観前に、PTAカフェ、シリタカ子育て！などの実施

○家庭学習でのかかわり方を啓発する。

「かかわり15分で学力アップ！」をスローガンに、家庭学習でのかかわり方を浸透させる。

② 二小っ子応援団による学習・活動サポート

○教師の負担軽減になるような支援をお願いする。

（例）保護者＝校内探検の引率応援 赤ペン先生 大掃除のお手伝い

地 域＝昼休みの見守り 大掃除のお手伝い

③ 中学校との連携

○まずは校長同士で強固に連携をとる。

○6年生の中学準備へ向けた取組の実施

○出前授業の実施（中→小へ、小→中へ）

④ 校区コミュニティの充実

○教師の負担軽減になるような支援をお願いする。

○事務局と事前の打ち合わせや段取りの相談などを密にする。

○右図のように、「児童への教育的効果」「教師の負担軽減」

「地域への貢献」が期待できる内容かどうかを吟味する。

